

「Cholangiography and Pancreatography」＜英文版＞

〔共 著〕

大 藤 正 雄 大 野 孝 則
土 屋 幸 浩 税 所 宏 光

東京慈恵会医科大学教授

亀 田 治 男

近年、胆道疾患・膵疾患の研究、診療は目ざましく発展した。なかでも、まず第1にあげられるのが、経皮的経肝性胆道造影法（PTC）や内視鏡的逆行性胆管膵管造影法（ERCP）など、直接的胆道造影法の応用とその普及である。

胆道疾患の診断には経口的、静注法などの排泄性胆嚢造影法が広く用いられているが、これらの方法の最大の欠点は、病変が存在するときにしばしば胆嚢が造影されないこと、また黄疸の診断に役立たないことにあった。しかし、直接胆道造影法の応用によって、多くの胆道・膵疾患、とくに閉塞性黄疸症例からも重要な診断根拠が得られるようになった。

PTC 法は肝を穿刺するために、胆汁漏出、出血などによる危険を伴うのではないかと懸念されていたが、著者ら千葉大学医学部第1内科の研究グループは、穿刺法、穿刺針

の改良によって解決し、そのために本法は広く普及することとなった。

現在、この方法はわが国はもとより、世界的にも広く用いられており、その穿刺針は Chiba needle とよばれている。これは著者らの長年にわたる努力の賜であり、この業績と診療への貢献とは高く評価されている。

本書は、大藤正雄・大野孝則・土屋幸浩・税所宏光氏らの著者らが、PTC とその応用、さらにわが国で目ざましい進歩をみている ERCP や低緊張性十二指腸造影法 HDG について、英文にまとめたものであり、これらの方法の発展と現状を集約した名著といえることができる。

内容は、まず PTC, ERCP, PTC+HDG などの方法の解説、その基本的事項などについて記載し、X線学的診断法が詳述されている。さらに著者らの胆道・膵疾患の豊富な経験例の X 線写真を掲載したもので、

314頁に及ぶ著書である。とくに248に達する症例の写真は鮮明であり、疾患や病態の種類も豊富で、診療の参考となる点が多々である。

本書は英文の医学書として広く世界の研究者・臨床医家により読まれることとなるが、そのすぐれた内容と記載とから、世界的に誇りうる書であり、裨益することが大なりと信じる。また、わが国の医家にとっても、一読する価値のあるものである。これらの造影法がますます普及し発展する機運にあり、したがってその解説書の要望されている折柄、本書の刊行は誠に時機を得たものである。

著者らの多年の努力に対し敬意を表するとともに、胆道・膵疾患の診断に関する名著として推薦する次第である。

B 5 頁 324 図 92 写真 327 原図 31
1978 年 ¥ 12,000 円 300 医学書院刊